

令和6年度第1回七尾市総合教育会議 議事録

【日 時】令和6年4月22日（月）16時から16時45分まで

【場 所】七尾市役所4階 401会議室

【構成員】七尾市長 茶谷 義隆、七尾市教育委員会教育長 八崎 和美
教育委員会教育長職務代理者 寺岡 卓子
教育委員会委員 大森 重宜、山田 理平、津田 康子

【事務局ほか職員】

企画振興部長 楠 利勝、教育部長 松村 和浩、
企画政策課長 板坂 繁、教育総務課長 観音 和繁、学校教育課長 奥原 真弥、
スポーツ・文化課長 見里 博之、文化財復旧保全対策室長 善端 直
企画政策課課長補佐 橋本 恵子、教育総務課課長補佐 小原 真紀子、
企画政策課主事 堂脇 瑞稀

【議事】

- 1 開会
- 2 協議 （1）教育大綱の策定について
- 3 閉会

【議事の経過】

1 開会

板坂企画政策課長

ただいまから、令和6年度第1回総合教育会議を開会いたします。

茶谷市長

- ・第二期七尾市教育大綱の計画期間が今年の3月をもって満了となり、今後も継続して取り組みを進めていくために第三期七尾市教育大綱を策定したく本日お集まりいただいた。本来であれば2月頃に開催すべきところ、震災の対応等により本日もなったことをお詫び申し上げます。
- ・今回の大綱には、この震災に関する復旧復興に向けた取り組みも盛り込んでいる。
- ・これまで以上に連携を密にしながら当市の教育行政がより一層良くなるよう取り組んでいきたいと思う。

2 協議

（1）教育大綱の策定について

（松村教育部長説明）

大森委員

- ・復旧復興の後に、何を求めるか、何をするのかということをしてできるだけ早く示すこ

とが我々の責任だと考える。部活動の変遷など、地震の前から七尾市の教育に関して解決すべき課題がたくさんあった。言葉は悪いが、この地震を契機に何かできないかと考えてもいいのでは。

- ・最近、七尾に対する忠誠心や愛といったロイヤリティが低くなっていると感じる。七尾のために生きていくというような人たちを育てるために、ロイヤリティを高めるために、様々なことをやらなければいけない。
- ・公助を頼りにしている人が多いが、そこから共助、自助に移れるかが大切。大綱にも祭りなどの伝統文化とあるが、祭りは共助のたまものであり、町がうまくいくかどうかということと直接的に関係していると思う。明治時代に七尾で大火事があったときもすぐに復興し、たくさんの人が集まってきた。おそらく楽しそうな祭りがあったからだと思う。
- ・子どもたちのロイヤリティを上げるために何をすべきかということ、より具体的に示し、考えていかなければならない。この教育大綱の裏にそういう事情があることを認識すべきだと思う。

津田委員

- ・美術館などの文化施設の復旧復興が手つかずの状態であることが気になった。

茶谷市長

- ・施設をいち早く復旧させ、様々な活動に使っていただけるように、今一生懸命準備している。

山田委員

- ・大綱についてはいいと思う。復興に向け、優先順位が大事になってくるが、文化に関して言うと、津田委員の言う通り施設の改修が大事だと思う。

寺岡委員

- ・大綱を見て、多くのもの、人、事柄を「つなげる」「つながる」ということがキーワードだと感じた。先日輪島市の避難者に話を聞いたとき、子どもが笑っていてくれるだけでいいと言っていた。大人が避難所で率先して動く姿をみせると、子どももおのずと笑って一生懸命手伝ってくれる。そこで大人が何もしなかったり引っ込んだりしてはいけない。子どもたちのために今だからこそできる姿を見せることが大切。
- ・大綱の中で、家庭、学校、地域の連携ともあったが、今だからこそ地域の力がとても必要だと思う。

八崎教育長

- ・大森委員が言われたとおり、言葉は悪いが大変なこの状況を生かさない手はない。

七尾を誇りに思えるように働きかけていくことが大切。総合的な学習の時間のなかで復旧復興について取り扱い、大人が復旧復興に向かっていく道筋を共有し、どれほど大切なものが今破壊されていて、それを復興するのにどれだけかかるのかということを感じてもらいたい。たくさんの人たちが復旧復興に関わっていることや、七尾を元気にしようと働いている大人たちの知恵や工夫に触れさせるいい機会だと思う。その視点で総合的な学習に取り組んでほしい。ただ、子どもたちも被災者であるため、心のケアの部分を考慮しどこまで突っ込んでいけるかは考えるべき。

- ・基本理念に「輝く未来を切り拓く人づくり」とあるが、これは、自分で目標を立てて自分で学び、既成概念にとらわれないということ。そのような子どもたちを育てていくという方向で学校教育を進めている。
- ・基本方針3の「ICT環境を活用した児童生徒の情報活用能力の育成」とあるが、自分で決めて自分で学び、わからなかったら人に聞きながら考えるという行動は、ギガスクールのみ1台の自分の端末で調べていくということにつながる。ICT環境の活用というところにつなげながら、自分で未来を切り開いていくという教育を強く出していきたい。

茶谷市長

- ・今回の震災で、共助、自助が大事だと感じた。公助にできることは限られている。共助、自助があって震災対応も進んだと思う。避難所運営や、近所の水くみなどを通し、地域のつながりを感じることができた。

大森委員

- ・阪神淡路大震災のとき、地域の祭りであるだんじり祭りに一生懸命取り組んでいるところほど復興が早かったと聞いた。地域のつながりが大事だということが分かる。
- ・これからの取り組みを全国にアピール、発信することが大事なのでは。能登で何か大きなイベントをするのも1つ。現状ではできないと思われるようなことをできないと思わず、できることを考え、夢をもっていかないと、七尾は近い将来ダメになってしまう。
- ・子の教育がすべてだと思うので、教育をちゃんとしていかないと未来はないと切羽詰まった気持ちでいろいろ取り組んでいくべき。

茶谷市長

- ・この大綱について、この案で進めてもよいか。

【異議なし】

3 閉会

板坂企画政策課長

これを持ちまして、令和6年度第1回総合教育会議を閉会いたします。